

令和7年度 多職種連携研究会 実績まとめ

テーマ

○認知症

- ・「新しい認知症観」に関して
- ・当事者による講演
- ・初期集中支援チームの取組について

○災害時の対応

- ・避難所運営ゲーム（HUGゲーム）
- ・地域の方とともに、地域での災害時の対応、資源等について学ぶ
- ・人員派遣等経験者から、被災地での支援活動を学ぶ

○ACP

- ・専門職としての関わり方
- ・自分事として捉える

○複合的な課題を抱えた家庭への支援

- ・具体的な事例検討を実施

課題

◎ACPの理解が専門職の中でも十分には進んでいない。

◎認知症に関する相談が増加。関係機関だけではなく、地域全体へ正しい知識を広め、地域での見守りが重要。

◎ACP・認知症・災害対応等、我が事と捉えてもらえるような工夫、また、繰り返し啓発することが重要。

◎多職種連携だけではなく、地域との関わり・見守り体制の構築が必要。

◎多職種連携に関する知識や意識に、差がみられる現状がある。

◎人材不足や業務多忙から研究会への参加が困難な状況が続いている。

◎多職種連携研究会の開催時間・曜日の工夫、テーマに関心の高い内容にするなどしているが、新規参加者は増えにくくメンバーが固定されてきている。

令和7年度の取組と 令和8年度における取組の方向性



医療相談員とケアマネジャーを対象に研修会を開催した。この研修会は次年度以降も医療職と介護職の相互理解を深める目的として継続する。

また、より広く地域包括支援センターを周知していくため、医療機関向けのPR動画を作成している。講演会等の場で使用できるよう、完成に向けて進めていく。



ケアマネジャーを対象にアンケートを実施し、ケアマネジャーの業務負担軽減について検討した。次年度は、ケアマネジャーの業務内容を周知するためのリーフレット作成を進めていく。

また、障害福祉関係機関とも引き続き調整を進め、互いに情報交換・共有できる機会を検討していく。

